

いわてこどもケアセンター診療支援の実施状況について

岩手医科大学・いわてこどもケアセンター

このたびは、本学が岩手県から受託運営している「いわてこどもケアセンター」への診療支援に多大なるご協力を賜り、誠にありがとうございました。

今年度の取組み状況についてご報告いたします。

1 ご支援いただいた大学

派遣医師 延べ 20 名 (平成 26 年 5 月～平成 27 年 3 月まで)

秋田県立医療療育センター(秋田大学) 大阪大学 九州大学 京都府立医科大学
近畿大学 久留米大学 慶応義塾大学 聖マリアンナ医科大学 東京女子医科大学
名古屋大学 奈良県立医科大学 広島大学 山形大学 横浜市立大学 (50 音順)

2 診療支援の状況

派遣いただいた先生方には、アセスメントから診断までを 1 日で行う「発達ドック」をご担当いただきました。

(1) 発達ドック受診児童内訳 (平成 26 年 5 月～平成 27 年 1 月)

	未就学	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
男児	2	3	1	4	1	2	1	1	2	0	17
女児	2	0	2	1	0	1	0	0	1	1	8
計	4	16						5			25

(2) 受診経路

学校(教職員や SC)、医療機関、その他機関(児童相談所、発達障害支援センター)

(3) 来所時の主訴

行動面 集団不応、不登校、学習困難など

(4) 1 日発達ドックにおける診断(主なもの)

注意欠如多動性障害 12 例 自閉症スペクトラム 9 例

(5) フォローアップ

常勤医が引き継ぎ、継続診療しているもの 18 例

3 診療支援をいただいたことによる成果

(1) 患児、家族の負担軽減とアセスメントから診断・説明までのパッケージ提供

通常診療においては診察、検査、結果の説明等含めて複数回の受診が必要となりますが、「発達ドック」においては 1 日で実施することができました。沿岸被災地域から当センターを受診す

る場合は、片道 2 時間以上かかるため、患児及び保護者の負担軽減へつながりました。

また、平成 27 年 1 月以降、1 回あたりの支援滞在期間を延長していただいたことから、日程の融通が利くようになり、学校等関係機関への説明までもパッケージとして実施することができました。同じ医師によりアセスメント・診断・説明がなされることにより一貫性が確保されるとともに、その後の引継ぎにおいても初期対応が済んでいることから効率的な再来診療が実施できました。

(2) ケアセンタースタッフのスキルの向上

派遣医師とともに、ケアセンターの看護師・作業療法士・臨床心理士・精神保健福祉士等が患児ごとにチームを構成して「発達ドック」を進めてきました。診察時や診断結果の説明時に陪席させていただくこと自体が貴重な機会であり、診療の合間には心理教育、脳機能や知覚神経、ケースフォーミュレーションなど、各先生方の専門領域についてのレクチャーをいただき、最先端の実践を踏まえたさまざまな知見をご教示いただく機会を得られました。被災地巡回診療などで勤務拘束時間が長く、外部研修会への参加機会を得にくいスタッフにとっては、貴重な機会となりました。

4 今後の展望について

岩手県は、もともと児童精神科医療資源が乏しく、県立施設と当センターに外来患者が集中している状況にあります。いわてこどもケアセンターの診療状況も開設以来増加傾向が続いております。そのような中、皆様方からの支援と並行して、本学においても小児科学講座と神経精神科学講座との連携により、子どものこころの診療に関心を持つ医師の養成等の取組みを進めてまいりました。今般、おかげさまをもちまして、一定の体制を確保できる見通しがたったところでございます。

しかしながら、日常の診療活動を通してみると、地域における医療偏重志向も強く、医療側の体制確保だけでは不十分であることを実感しております。次のステージとしては、地域で子どもたちの支援にあたっている支援者のスキルアップ、関連分野との診療ネットワークの構築により医療が必要な子をいかにつないでいくかということ、医療サイドが教育福祉機関に対してどのように支援をしていくのかということ、そしていわゆるグレーゾーンの子どもたちをいかに地域で支援を行っていくのかといった課題に対しての取組みを進めて行く必要があると認識しております。

東日本大震災津波の発災から 4 年となりますが、被災生活が長期化するなど、子どもたちを取り巻く環境は厳しい状況が続いております。今後も子どものこころのケアのニーズは増えていくとともに、多様化・複雑化が進んでいくものと考えております。

つきましては、各地で実施されている先進的な取組みを参考とさせていただきながら、また、皆様方からのご教示もいただきながら、被災した子どもたちの支援を継続していく所存でございます。

このたび継続派遣いただいたご支援につきまして、心より感謝申し上げます。